

47年度第1回シグマ委員会幹事会 議事録

日 時：昭和47年6月8日(木) 1330-1630

場 所：原研東海研 VdG 29号室

出席者：百田，平田，中島，桂木，坂田，五十嵐，西村

議 事

1 Safeguard(以下S.G.)核データのリクエストについて

平田委員より燃焼度測定委員会における現在までの経過が報告された。

「日本より70年にIAEAに提出したS.G.核データのリストがある。今回INDCから要請されているS.G.核データのリストの提出をどういう形で行うのが問題となっている。

これに関連して原研の燃焼率測定研究室とJPDRの人達がburn up analysisに必要なデータをまとめる作業を行い、現在この第1原案のリストがある。このリストのscreening作業は大変なものになると予想される。

近日中に燃焼度測定委員会の幹事会を開いて、どう取扱いか検討することになっている。」

この問題に関して、シグマ委員会はS.G.核データのリクエストをどう取扱い
るか、また燃焼度測定委員会にどう関係すべきかについて討議が行われた。

主な意見、確認した事項は次の通りである。

- i) 現状のシグマ委員会の枠ではS.G.リクエストのデータに手を広げるのは無理である。しかし枠が広げられるならばこの仕事をシグマ委員会の内に入れることは合理的であると考えられる。

ii) 現在実施している burn up の仕事に即してリクエストを出すのが IAEA の要請の趣旨にかなっている。これを燃焼度測定委員会から直接 IAEA に提出する。

INDCメンバー(西村)は、リクエストリストの提出を国に促し、INDC でそれを受ける立場にある。

iii) シグマ委員会は S.G. 用 Nuclear Data について手をつける余裕はない。しかし FP の核データはいつれ燃焼度測定委員会との関連が出来るので考慮しなければならない。

iv) 現在日本では passive assay については no activity である。Burn up analysis という形で、active assay の面でしか仕事がやられていない。両者の関係をどうするかという点が行政的に問題である。assay はシグマ委員会の範囲外である。しかしそのための ND はシグマ委員会の現在枠に入るものもあり、また枠が広げられることになれば更に関係は深まる。Passive assay に必要な Nuclear Data についてはシグマ委は現在の枠内でもかなり関係があるだろう。

v) シグマ委として、S.G. のリクエストデータに答えられるなら、将来の核データセンタの仕事の芽を育てる意味で有意義である。

2 核データセンタについて

5月25日に行なわれた48年度概算要求についての原研内ヒヤリングについて、翌日部長から説明があった。このときの核データセンタに関する組織要求の状況を、再びこの拡大幹事会で説明し、この問題についてシグマ委員会としてどう考えるか意見交換を行った。

主な意見、対策は次の通りである。

i) 組織要求と人員増の要求を切り離せと云っているのは、原研内部でセンタ

構想が変ってきているのではないか。

外部は以前(42年)からデータの提供を受け易い形の組織を要求していた。

- ii) 外部の意見を6月12日に確認するため、外部委員を含んだ拡大幹事会を開く。
- iii) 物理部内からの要求だけでは、研究室でやってはなぜ悪いか、センターという組織の必要性がわからないといわれるので、外部の要求をシグマ委から理事会に持込んだらどうか。
- iv) 原研内で関連課室を集めてセンタ業務をやっていったらどうか。物理部という枠ではだめで、もっと巾広い枠の組織を作り、この中に核データも入ることを考える。
- v) 核データセンタの組織要求の資料をもっと整備する必要がある。

3 World-wide RENDAについて

IAEAから送られてきたworking paperについて討議した結果、提案されている5つのスキームのうち、B.3のスキームを日本としては選ぶことになった。ただしB.3のスキーム中で新しいリクエストリストに対するレビューアのコメントレポートをシグマ委にも送ってもらって、われわれのリクエスト作業の便宜を計るための資料にしたいというコメントをつけることになった。

4 研究会について

5月19日に第1回準備会を開き、その結果11月9~11日に行うことになった旨、報告があった。詳細は配布資料を参照のこと。

5 その他

次回のシグマ委員会（本委員会）は、一応 8 月上旬の予定とする。